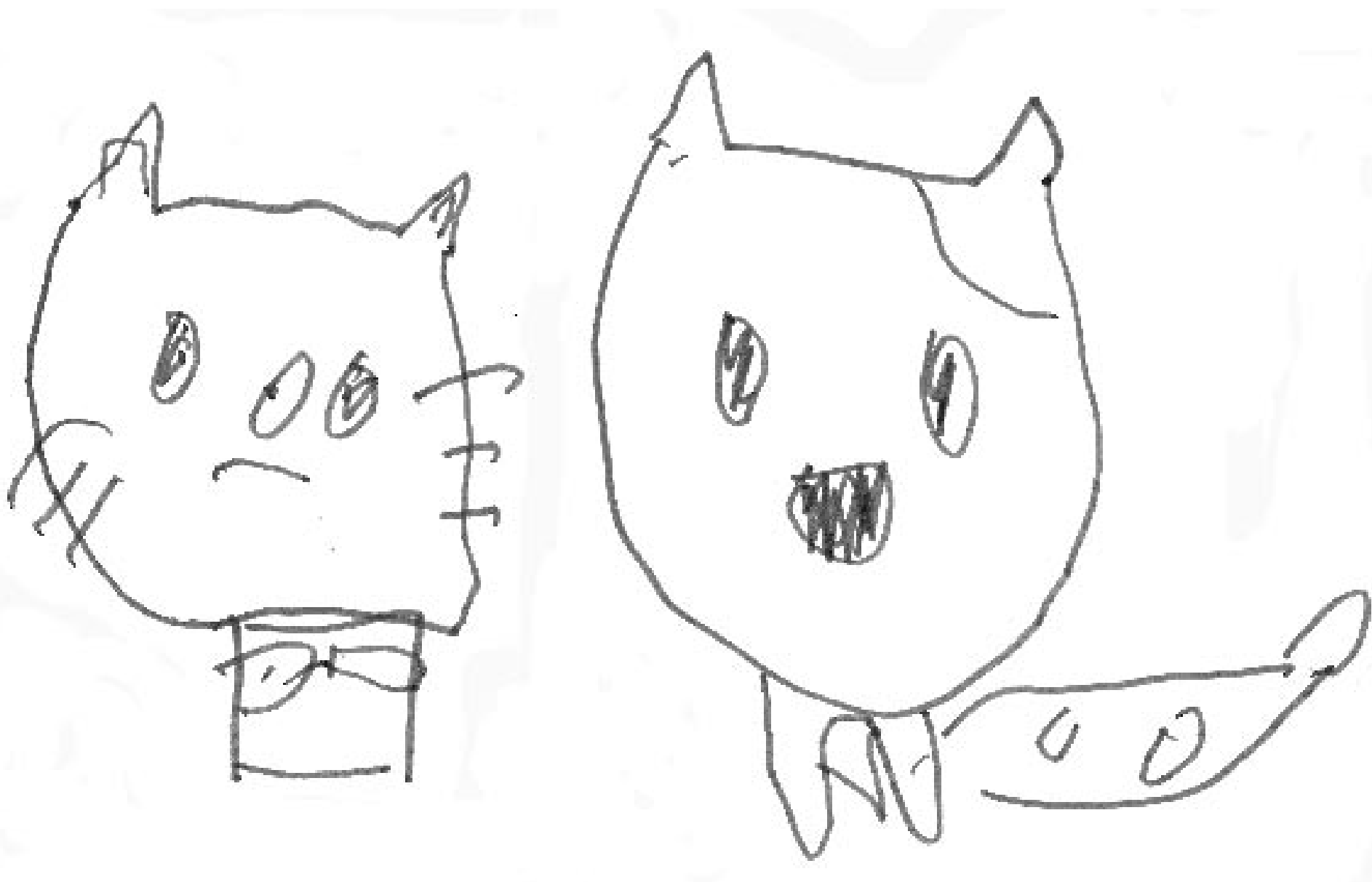


編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com
代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円
年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円
法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円
振替口座00940-0-161341
「まねき猫通信」



題字：
塩澤 文男
(しおざわ・ふみお)

とくしゅう くまもと じしん げんち ほうこく
特集：熊本地震-現地からの報告-2
りれーえっせい だいがく ふくしひなんじょに むらかみひろし
リレーエッセイ：大学を福祉避難所に-村上博-4
こっか ほうち ひばくひがいしや いづかなおと
国家に放置されたビキニ被曝被害者-石塚直人5
たかが さぎょうしょ さぎょうしょ くすのきとしお
たかが作業所されど作業所-楠敏雄6



ひそひそばなし

絵：よっちゃん (奏海の杜)

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

い将来「テロもデモ同じだ」とばかりに弾圧が日常化する▲倫理観の欠片もないことを自ら暴露して羞恥心すら覚えない都知事、イノセに続いてマスゾエも：都民が立ち上がる気配はない▲事ほど左様におぞましい佇まいをば、まあ、辺見庸は『1★9★3★7』で「意味後世界」と命名した。(ハギ)

「と」：▲原爆投下に反省も謝罪もしないオバマが広島を訪問するということは、原爆文学や優れたホルタージュ、映像、音楽、絵画、演劇など、原爆に関する一切の具象と表現への否定と蹂躪を意味する。安倍はヒロシマをオバマ・フィリターに透過させることでフクシマを脱色し、核被害者の憤怒を無力化することに成功、以て、戦争国家への道を堂々と歩む▲庶民の生活に微塵も関係ない「伊勢志摩サミット」を成功させるために、異常なまでの過剰警備と我々に強いる不便を当然だとする風潮の醸成は「緊急非常事態の際における市民権の剥奪」の予行演習に他ならない。近

またしても起きた女性強姦・死体遺棄事件で、翁長知事が米軍基地問題と日米地位協定の見直しをオバマと直接話し合いたいと安倍内閣に申し出るも「外交は中央政府で協議する」と官房長官の弁。沖繩に対する蔑視・差別・抑圧の上に成り立つ「安保」や「外交」を「信頼し

熊本地震

げんち 現地から

ひさいちしょうがいしゃ 被災地障害者センターくまもと

だいひょう 代表

くらたてつや 倉田哲也

厳しい環境にいるなかまは、自分たちの手で守っていく



▲地元紙を示しながら報告する倉田さん

熊本地震では、死者49人、行方不明者1人、負傷者1684人、避難者数最大時18万人の被害が確認されています。

5月14日、「被災地障害者センターくまもと」代表・倉田哲也さんが来阪され、現地報告・交流会が行われました。同日13時から、ゆめ風基金が難波高島屋前で支援カンパ活動を行い

ました。熊本地震では、福祉避難所が機能せず、多くの障がい者とその家族が行き場を失いました。倉田さんたちは、「自分たちの手でなにかまを守る」を合い言葉に、厳しい環境にいる障がい者の掘り起こしと支援を続けています。熊本市議・村上さんの「当事者リレーエッセイ」と合わせてお読みください。(文責・編集部)

今年4月に新入スタッフ6名を迎え、「仲間が働く場と売り上げを上げていこう」という矢先に大地震が起こりました。4月14日の前震の時には、電気や水道が機能しており、全メンバーの安否確認ができました。ところが16日深夜、本震が起き、私は妻と義母とともに車に避難しました。家は傾き、壁はヒビワレていました。間もなく停電し、ガス漏れの心配からガス供給も停止されました。

翌朝、障害者労働センターに行くとおれんじカフェは大きく損傷しており、40名の給食作りもできない状態でした。おれんじ村事務所は地震に耐えたので、1階を避難所にし、停電・断水のなか、布団やカーペットをかき集め、水確保のため雨を貯めるべくバケツを並べ始めました。

交通の大動脈は寸断され、家屋が傾き、雨漏りで家に帰れず、片づけも進まないのので、車中泊の家族を多く見かけました。大地震が2度も続いたので、いつも余震におびえています。18日、おれんじ村事務所の電気が復旧。「ゆめ風基金」共同連メンバーも熊本入りし、避難所に行けない障がい当事者の掘り起こしをしようと決めました。20日には、障がい者団体が集まり、「被災地障害者センターくまもと」を立ち上げました。代表は私、倉田、事務局長は弁護士で熊本学園大学

避難状況を共有

22日の会議では、各団体の現状と共有を行いました。市内の通所生活介護支援センターからは「最重度の利用者のうち約半数が避難所生活。天草や福岡に避難した人もいます。支援員も被災して気持ちが悪く、ピリしている。避難所への送迎はできているが、センターの水道が出ないので風呂が使えない。お湯を沸かして行水で対応」との報告がありました。また、「きょうされん」からは「全利用者と連絡がついた。



◀お菓子作り・販売を再開した

倉田哲也

1966年生まれ。13歳で養護学校で生活。85年、高校卒業後、まもと障害者労働センターに入社。90年、代表に就任。04年6月、自動車運転免許取得。日本初、でハンドル操作式運転。同年11月、入籍。その記録ドキュメンタリー映画「もっこす元気な愛」、上映会開催中。

事業所が避難所になっているところが県内に5カ所。利用者や家族が一緒に避難している。職員も疲弊している。

ヒューマンネットワーク熊本からは、「18名が熊本学園大学に避難中。家に帰りたいが家

シを作成する、としました。熊本市、益城町、阿蘇市の3市町だけで、身体・知的・精神の障がい者手帳を持つ人は約5万人です。自治体は、保健師を避難所に派遣しましたが、障がい者への戸別訪問までは手が回らない状態でした。

そこで私たちはまず、チラシを配って声をかけることから始めました。一軒一軒掘り起こすための戸別訪問は、石巻や気仙沼の経験に習いました。こうした安否と避難状況の確認を急ぐとともに、8人ほどが暮らせる宿泊所も確保して長期的な支援体制作りを進めました。

の片付けができていないので、片付けの手助けがほしい。視覚障がい者団体からは、「熊本市が要援護者名簿を提供してくれた。5、600人いる。安否確認を進めたいが、連絡担当者が3組だけで、進まない。家族と避難所で暮らす人は、家族が仕事へ行くとトイレに行けないという悩みがある。」

難聴者、中途失聴者からは、「会員50名のうち1名の安否確認ができない。避難所のテレビに字幕がないので情報が得られない。補聴器の電池がなくなると、全くわからなくなるので、苦労して電池を集めている。」

発達障がい児の支援団体から

は、「車中泊していても変化に
対応できず、危険な家に戻っ
てしまう子どもがいる。地震に
怯えて母親から離れず、片付け
ができない。主治医が変わると
動揺する子、感覚過敏で避難所
の音や臭いに耐えられない人も
いる。困っていることを発信で
きない当事者が少なからずい
る。安心して過ごせる居場所や
悩みが共有できる場がほしい。

地域住民からの相談

24日、事務所開設の準備をし
ていると、市民から「家屋倒壊
の危険がある家に一人で暮らし
ている人がいる」との電話があ

りました。近所に住む精神障
がい者の男性の身を案じた方か
らの相談で、私たちは現場に
急行。本人の希望を聞き保健所
と連携をして対応策を検討する
道筋をつけました。こうした
地域の人たちからの相談が、5
月13日までに50〜60件ありまし
た。とてもうれしいことです。
最も残念だったのは福祉
避難所が確保されていないなかっ

たことです。電気や水道が止ま
ると、重度障がい者にとって
は、呼吸器が動かせないなど命
に関わる場合もあります。地域
の避難所で「設備がないから
出て行ってくれ」などと言わ
れ、途方に暮れた障がい者の
家族がたくさんいました。この
ため熊本学園大学が、15日から
自主的福祉避難所となり、テレ
ビでも紹介されたために、多く

の障がい者や地域の人の避難所
となりました。
道路が寸断され物資輸送全体
が止まりましたが、ゆめ風のな
かまが、20時間かけて支援物資
を届けてくれました。
気持ちをうまく伝えられな
かったり我慢する障がい者も多
いので、掘り起こしが必要です。
熊本は保守的な県なので、周囲
の人たちの無理解もあり、訪問

を受け入れられない家庭もありま
す。厳しい境遇のなかまが
いるので、自分たちの手で守って
きたいと思えます。
5月9日、労働センターのメ
イン事業であるお菓子作りと
販売を再開しました。熊本県内
が大変な状況なので、県外で
の販路拡大をめざしています。
店舗にも卸していきたいと思っ
ていますので、ご検討いただけ
る方はご相談ください。また、
名刺の版下データ作成や封筒の
名人入れなど、印刷物も制作しま
す。どうぞご注文ください。
詳しくは左記HPをご覧ください
だくか、電話かFAX、メール
でお尋ねください。

ゆめ風基金 現地入り

多様なニーズに人手足りず

掘り起こしが重要

ゆめ風基金
専務理事
八幡隆司

熊本地震が発生し、ゆめ風
基金として4月18日に熊本入り
しました。すぐに現地の障がい
者団体と会合を行い、支援のた
めのプラットフォームづくりを
しようということになり、現地
の障がい者団体約20団体が集
まって、「被災地障害者センター
くまもと」が結成されました。
被災地障害者センターくまも
との代表をくまもと障害者労働
センターの倉田さんをお願い

し、「おれんじ村」の一部を借
りて事務所準備を進めました。
5月1日より、センターの活動
がはじまりボランティアの受け
入れが始まり、センターが立ち
上がったことを被災市町村に知
らせると同時に避難所回りをは
じめました。
東日本の時とは違って、
避難所には思ったより多くの
障がい者がいました。東日本
大震災の時は1週間ほど避難所

回りをしても、ほとんど障がい
者に出会うことはなかったのだ
すから。
すぐに相談が舞い込み始め、
支援に追われることになりまし
た。例をあげると、●市内
西区の生活介護事業所あゆみの
利用者のうち、益城町などから
通っている人たちが「あゆみ」
で避難生活を送っているため、
その介護支援。●熊本学園内
に避難した障がい者への支援。
各種相談 ●家にブルーシート
を張ってほしい。(益城町) ↓
益城町の他のボランティア団体
につなぐ ●家の片付けをして
ほしい。 ↓実際に家を訪問し、
片付ける。 ●家の片付けの
間、障がいをもつ子どもの保育

をしてほしい。 ↓避難所へ行き
保育の実施。 ●屋根の上の
温水器が落ちかけている。メー
カーもわからず、どこへ電話し
てよいかわからない。 ↓現地へ
行き確認する。メーカーがわ
かったら、メーカーで対応し
てもらおう。 ●その他精神病の
方、視覚障がい者、母子家庭(お
母さんが障がい者)などの相談
があり、面接を実施。 ●家を
探してほしい、罹災証明などの
手続きがわからない、避難生活
をする上での不安なども多数
電話があり、その都度対応、な
どなです。
しかし避難所回りをしても
多動のお子さんを持つお母さん
や当事者にはほとんどで会いま

行政が行う障がい者の安否
確認も後手後手に回っている感
じがあり、東日本大震災の教訓
が全く活かされていないのが
実感です。
現在も多くの障がい者からS
OSがセンターに寄せられてい
ます。その支援を行う一方で、
まだまだ出会えていないニーズ
を抱える障がい者を探すことも
しなければなりません。そして
そのための人手も足りていない
のが現状です。

〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-5-40
TEL : 096-382-0861、FAX : 096-285-7755
1985orange@gmail.com/http://www.1985orange.com/
また、再建のための寄付を募集しています。
よろしくごお願い致します。
銀行名：熊本銀行託麻(たくま)支店
口座番号：2091044
名義：社会福祉法人くまもと障害者労働セン
ター 理事長 花田昌宣(はなだまさのり)